

特定非営利活動法人 エイズ孤児支援NGO・PLAS



PLAS POST

わたしたちは、取り残された
子どもたちが前向きに
生きられる社会を目指します

2023



活動の御礼とご挨拶

みんなとつくる、アフリカの子どもたちの未来

2023年度もPLASの活動へ温かいご支援、応援をいただき心より御礼申し上げます。

今年も様々な困難に直面しましたが、それ以上に子どもたちが生き生きとする姿など、心震える場面にも立ち会ってきました。

わたしたちのすべての活動は、皆様の支援なしには成し得なかったものばかりです。多くの方々の貢献、そして温かい想いが、私たちの活動を支え、子どもたちを支えてくださいました。

これからも変化の積み重ねを丁寧に紡いでいきますので、変わらぬ応援をどうぞよろしくお願い致します。

代表理事 門田瑠衣子

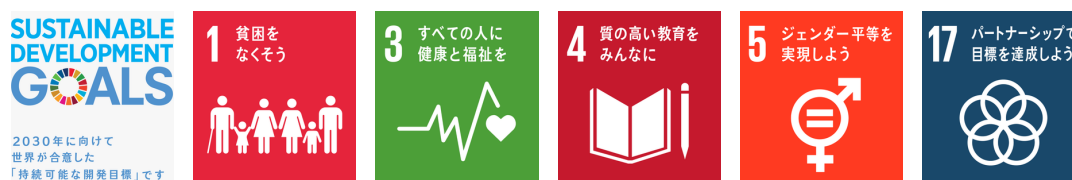


PLASのビジョン

わたしたちは、取り残された子どもたちが前向きに生きられる社会を目指します。

PLASのミッション

アフリカで取り残される孤児や貧困家庭の子どもたちが前向きに生きられるよう、地域社会と共に課題解決に取り組みます。



PLASはSDGsに取り組んでいます。

アフリカでの活動一覧

国	プロジェクト
ウガンダ	<ul style="list-style-type: none">• カフェ・ビジネスによるシングルマザーの生計向上事業(CAFE) 4期• HIV陽性ユースのための技術訓練事業(BRIGHT) 2期• HIV陽性の脆弱な家庭に対する農業を通じた生計向上とキャリアプランニング支援事業(SMILE)• HIV陽性者家庭の生計向上・栄養改善のための在来種野菜栽培支援(SHINE) 2期、3期
ケニア	<ul style="list-style-type: none">• エイズ孤児を抱える貧困家庭の生計向上とキャリアプランニング支援事業(FLOWER) 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)• ケニア共和国エイズ孤児を抱える貧困家庭の養鶏による生計向上とキャリアプランニング支援事業(HOPE)• 学齢期の子どもの望まない妊娠を防ぐ保健推進事業(SRHR事業)

活動のハイライト

2023年の成果



70名

のユースとシングル家庭
が自立

SMILE事業・BRIGHT事業に参加するユースとシングル家庭の保護者が研修を修了し農業やスモールビジネスの事業をはじめました。



105 家庭

に家庭訪問を実施

現地パートナー団体が各家庭を訪問し、カウンセリングや農業・養鶏のアドバイスを届けました。



50 家庭

の子どもと保護者にカウ
ンセリングで支援

FLOWER事業では50家庭にカウンセリング支援を届け、キャリア計画や子どもと保護者のエンパワメントを行いました。

2.7 倍

収入が増加

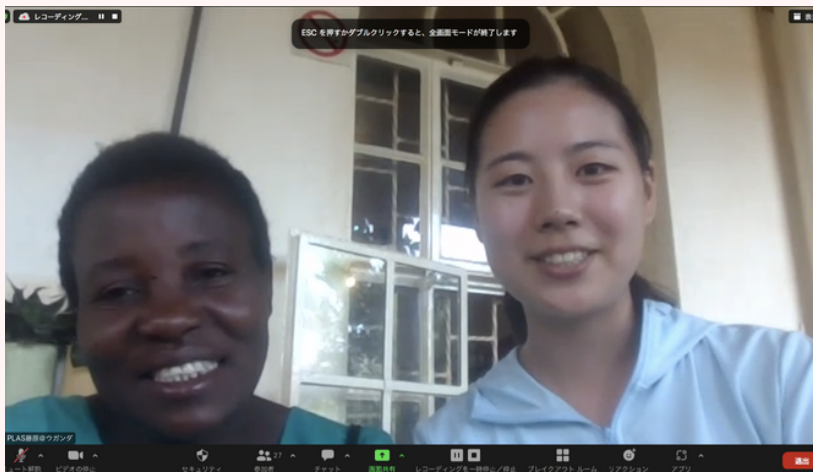
ウガンダのSHINE事業に参加したシングルマザー家庭で事業前と比較した平均収入が増加しました。



14回

のイベント開催

オンライン/オフラインで、イベントを14回開催し、世界各国、全国からご参加いただくことができました。



84人

チャリティーオークションにご協力頂きました

2023年度は、2022年10月～2023年3月の世界エイズデーキャンペーン、2023年4月～2023年9月のアフリカ子ども支援キャンペーンの2つのキャンペーンを通じて、のべ84名の方にご協力いただきました。みなさまからサイン色紙や私物など貴重なお品物をご提供いただき、約1,000万円を調達。現地に支援を届けることができました。



スタッフ・役員一覧

アフリカと日本で共に活動する仲間たち

PLAS日本事務局・役員



代表理事
門田瑠衣子



事務局長・理事
小島美緒



海外事業担当
山口和美



海外事業担当
藤原祐希



広報・資金調達担当
石田彩華



国内総務担当
蘭森絢子



インターン
藤田茜



インターン
藤井美有



インターン
池上愛



インターン
川満璃子



インターン
野村朋貴



インターン
田中瑛子



インターン
宮地有沙



インターン
木村涼乃



インターン
田澤朋子



インターン
戸谷里歩



インターン
伊藤三奈



インターン
中本亜美



インターン
日下京香



インターン
大串明日香



インターン
片山菜穂



インターン
佐々俊之



インターン
山本麗央



インターン
嶋津智香



副代表理事
一宮暢彦



理事
赤尾邦和



理事
鶴見和雄



理事
横山裕司



監事
矢崎芽生



監事
藤本俊明

PLASケニア事務所



トビアス



パメラ

ウガンダパートナー団体カユンガ



代表
ジョイ



秘書
フィレスター



会計担当
ジェシカ

ケニアパートナー団体ピアジェンコ



代表
ベンソン



コーディネーター
ヒラリー



カウンセラー
ポウリン



カウンセラー
エマ



フィールドオフィサー
ベナード



フィールドオフィサー
パンボ



コーディネーター
ダン



フィールドオフィサー
ケネス



会計士
リスパー



フィールドオフィサー
ヘンリー



フィールドオフィサー
ウェンディ

ウガンダパートナー団体ヒーレコースズ



代表
ムシシ



CAFE担当
エヴァリン



CAFE担当
ユダヤ



BRIGHT担当
ナマタ



BRIGHT担当
シシー



BRIGHT担当
ベティ



SMILE担当
ジャリア



SMILE担当
マヤンジャ



SMILE担当
シルビア



会計担当
ハジャラ



ケニア・ウガンダでの活動

新プロジェクトの始動と、パートナー団体の自立

今年度はケニアで新たな事業がスタートしました。PLASでは初めてとなる10代の子どもたちを対象としたSRHR（性と生殖に関する健康と権利）の事業です。

また、ウガンダでは2016年から協働してきたパートナー団体HE-RECODS（ヒーレコーズ）とのパートナーシップが終了。ケニアでは、「メタファシテーション」の手法を通じたパートナー団体のコミュニケーション研修に取り組むなど、事業を支えるパートナー団体の組織強化にも取り組んだ1年でした。

PLASでは「あげる支援ではなく、つくる支援」を大切に活動しています。これからも、現地の家庭やパートナー団体がPLASから自立して活動を継続していけるよう組織強化にも取り組んでいきます。

来年度からウガンダで新たなパートナー団体との協働を見据え、新規団体の調査・訪問をスタートしました。

学校で一番好きな勉強は、数学なの。

将来の夢は、看護師になること。

なぜなら、傷ついた人たちを癒すことができるから。

ジュリエットちゃん
(13)

SRHR事業

10代の子どもの望まない妊娠を防ぐため、事業がスタート

学齢期の子どもの望まない妊娠を防ぐ保健推進事業（SRHR）

- 地域：ケニア共和国ホマベイ郡ピタ準区
- 目的：子どもや若者がリプロダクティブ・ヘルス／ライツ（SRHR）について正しい知識と自信を得て、それらに関する自分の行動を選択できる
- 受益者：脆弱な環境にいる15～17歳の20名および保護者20名
- 期間：2023年4月～2026年3月
- パートナー団体：ピアジェンコ

ホマベイ郡では10代の高い妊娠率が33%にのぼり、ケニア全47郡のうち2番目に高い数値です。10代での妊娠は、母子ともに様々な健康上のリスクがありますが、ケニアでは非合法かつ安全ではない人工妊娠中絶に頼らざるを得ないのが現状です。こうした健康リスク・偏見などから、10代で妊娠・出産をした子どもが学校を中退せざるを得ないケースが後を絶ちません。教育を受ける機会を逸することで将来の子ども世代への貧困連鎖を招いています。

本事業では、SRHR（リプロダクティブ・ヘルス・ライツ：性と生殖に関する健康と権利）に関心を持つ10代の子どものたちが、ピアエデュケーターとして同世代の子どもたちに正しい性の知識を伝えていきます。

現地調査から見たこと

ピアジェンコと始めた新事業

「リプロダクティブ・ヘルス・ライツ」は、性や妊娠・出産に関わる全てにおいて、身体的にも精神的にも社会的にも本人の意思が尊重され、自分の身体に関することを自分自身で選択し、決められる権利です。

ここには、性教育や避妊手段、妊娠中の適切な医療サービスへのアクセスなどが含まれます。

事業を開始するにあたり、PLASとパートナー団体で「避妊具へのアクセス状況」と「学校での性教育の実態調査」を行いました。ヘルスセンターやキオスク（個人商店）で学齢期の子どもの買える一方、適切な知識を伝えられる大人が限られている課題が見えてきました。また、2校の中学校を訪問し、性教育のカリキュラムを調査。たった2校で年間5人の子どものたちが妊娠、中退した子どもがいたことに驚くとともに、この事業を通して、子ども・若者たちが、望まない妊娠を回避できる知識と姿勢を持ち、行動できるように後押しする重要性を感じました。

女の子の未来のために

望まない妊娠を防ぎ、学び続けられる地域をつくりたい

ホマベイ郡は、HIV感染率が23%で貧困率も非常に高い地域です。性に関する十分な知識やライフスキルがなく、望まない妊娠をして教育をあきらめてしまう10代の子どものたちがあとを絶ちません。PLASと立ち上げた新事業では、このような課題の解決をめざし、性教育やコミュニケーションスキルを学んでいきます。

近い将来、この地域で10代の女の子たちが教育を修了し、より良い暮らしを送れる未来を実現したいです。



ダン
ピアジェンコ
プログラムコーディネーター

顔が見える支援

それは新規事業でも

PLASが実施する事業は、1年に何万人、などの規模の大きいものではありません。その代わりに、FLOWER事業にはプリスカさんが、CAFE事業にはマルグレットさんやジャッキーさんがいます。数字の向こうにおひとりずつの顔があり、彼女たちは私たちと同じくそれぞれの事情を生活を、また家族を抱えています。事業に参加するにつれ彼女たちの目に光がともる様子は、厚い雲間に日差しが差しってくる様にも似ています。ひとりひとり顔が見える距離だからこの支援を、これからも届けていきます。



藤原祐希
海外事業担当



暮らしを前向きに変えていく力

農業で新たなチャレンジをスタートしたシングルマザーたち

ケニアで実施しているFLOWER事業では、子どもと保護者の未来をつくるためのカウンセリングと、農業支援による生計向上を50家庭に届けています。そのうちのひとり、プリスカは6人の子どもを育てるシングルマザー。これまでは、ビクトリア湖でオメナと呼ばれる小魚を獲り、天日干しにしたものを売って生計を立てていました。

FLOWER事業に参加してからは、農業研修を受け、ピアジェンコスタッフのアドバイスを参考にさまざまな野菜や果樹の栽培にチャレンジしてきました。なかでも「スクマウィキ」というケールの栽培に力を入れています。病気に強くて育てやすく、栄養も豊富なため子どもたちの健康も支えています。家計簿のつけ方も学び、小魚の販売よりも野菜の栽培・販売の方がコストパフォーマンスが良いことに気づいたプリスカ。

いま、彼女は自分の貯蓄で畑を広げ、新たな作物にチャレンジしています。その姿は他の家庭が見学に来るロールモデルとなっています。

事業に参加してから、子どもたちは学校に通い続けています。

育てた野菜は家族みんなが食べられるくらい確保できるようになりましたし、日常生活に必要な物資も買うことができます。

プリスカさん（51）

FLOWER事業

JICA草の根技術協力事業（草の根パートナー型）

エイズ孤児を抱える貧困家庭の生計向上とキャリアプランニング支援事業（FLOWER）

- 地域：ケニア共和国ホマベイ郡ビタ準区
- 目的：農業と植林を通じた生計向上とカウンセリングによるキャリアプランの作成
- 受益者：孤児や脆弱な環境にいる子どもの家族 50家庭
- 期間：2020年4月～2024年8月

カウンセリングを終えて、本格的な生計向上に移って1年。今年から新たに始めた取り組みに「エクスチェンジ・ビジット（相互訪問）」があります。農業を通じた生計向上で創意工夫を重ねて成果をあげている人の畑を、他の参加者たちが訪問します。収量を上げる工夫や、レモングラスなど珍しい作物の栽培方法、畑を広げる目標などさまざまな情報交換を通して、「もっと頑張りたい！」と刺激を受けていました。参加者どうしがお互いの畑を訪問し、学び合うことで、新たな可能性が広がるだけでなく、訪問を受けた側も「誰かの力になれた」ことで自信を得ていきます。



世界的な気候変動によって、現地では雨量が不安定になるなど、影響が出ています。それでも、生計向上では病気や気候の変化に強い在来種の野菜を育てています。パートナー団体だけでなく、農業局など現地の関係者との協働事例が広がっています。

HOPE事業

養鶏とキャリアプランニングで家庭と子どもを支える

ケニア共和国エイズ孤児を抱える貧困家庭の養鶏による生計向上とキャリアプランニング支援事業（HOPE）

- 地域：ケニア共和国ホマベイ郡ビタ準区
- 目的：養鶏を通じた生計向上とカウンセリングによるキャリアプランの作成
- 受益者：孤児や脆弱な環境にいる子どもの家族 15家庭
- 期間：2022年3月～2024年4月

15家庭に養鶏研修を実施し、飼育法やワクチン接種、衛生管理、マーケティング、会計を学んでいきました。ひよこを各家庭に配布し、全家庭が養鶏を開始。現地スタッフが家庭訪問を行い、鶏舎や鶏の様子を確認して、飼育や衛生面、鶏舎管理、飼育記録などの指導を行いました。研修では「大きな希望が持っていて、前向きな気持ちになれた」「収益が上がるようになったら子どもの学費を支払いたい」といった声が聴かれました。

現地の力強さを活かす支援

生きる力を地域とつくる

PLASが目指す「つくる支援」を現地で見てみたいと、現地インターンとして3ヶ月ケニアで生活する機会を頂きました。牛や鶏、ロバなど多くの動物と共に生き、雨を大地の恵みと喜び、2輪車タクシーで風をきる。そんな自然や動物と共に生きる現地の方々と共につくる事業は、彼らがよりしたたかに生きる力を育てているようでした。現在はケニアを離れ、リモートで事業を作るアシスタントを行っています。遠い土地からも現地のパートナーと繋がれることが嬉しいです。

戸谷里歩
海外事業
インターン





カフェ・ビジネスによるシングルマザーの生計向上事業(CAFE)

- 地域：ウガンダ共和国ルウェロ県
- 目的：カフェビジネスを通じた生計向上
- 受益者：HIV陽性シングルマザー12名（4期）
- 期間：2021年4月～2022年12月（4期）

ビジネスを持つ、誇り。

研修と実践を通して、ぐんぐん目に光を帯びていくママたちの姿

PLASのウガンダでのカフェ事業は、1期から4期まで行われました。対象は、HIV陽性のシングルマザー。村ごとに3人ずつのグループを組み、事業終了までに自分たちでCAFE経営できるようになることを目標に動き始めます。ビジネスをしたことのないママたちは、まず接客や収支計算から研修をスタート。チームビルディング、オープンを使ったケーキ作り、調理・栄養研修などをこなしつつ、路上でパラソルの下、簡易カフェを開店し、その後店舗での開店に移ります。

マルグレットは26歳。7歳の息子と2歳の娘を抱え、途中からCAFEママとして加わりました。途中から加わったためにオープン研修を逃した彼女。しかし、CAFEをするからにはどうしてもオープンを使った菓子が強みになると、コツコツお金を貯め、自力で追加研修費を捻出しました。彼女が朝6時から準備するCAFEは、近所の労働者や子どもたちがひっきりなしに訪れる場となっています。

夫は逃げていった。私は逃げる場がなかった。子どもは二人、食べさせるものはなかった。

今の自分には収入がある。生活必需品が買えるようになって、食べ物が買えるようになって、学校に子どもを行かせられる。

マルグレットさん(26)

SMILE事業

子どもたちが将来の夢を、描けるように

HIV陽性の脆弱な家庭に対する農業を通じた生計向上とキャリアプランニング支援事業(SMILE)

- 地域：ウガンダ共和国ルウェロ県
- 目的：農業を通じた生計向上とカウンセリングによるキャリアプランの作成
- 受益者：HIV陽性者家庭の子ども40名、保護者40名
- 期間：2021年4月～2022年6月、2022年9月～2023年1月（フォローアップ）

全保護者・子どものカウンセリングと農業研修が終了し、2022年9月からはカウンセラーによる家庭訪問と農業オフィサーによる農業アドバイスのフォローアップを行いました。村ごとにグループ貯蓄を実施し、セミュング村ではグループ貯蓄を利用して養豚をはじめ、マクルビタ村ではグループ貯蓄を分配してそれぞれの子どもの新学期の準備費として使用するなど、事業終了後に向けた取り組みが開始されています。2023年1月には修了式が行われ、子どもと保護者が誇らしげに終了証書を受け取りました。



アンジェラは、修了式で将来医者になりたい！と語ってくれました。「だって、私が医者になれば、おじいちゃんとか、おとうさんとかが病気になったらきちんと治療してあげられるでしょう。その分長く生きてもらえるでしょう？」

SHINE事業

食になり、収入になり、自己肯定感になる

HIV陽性者家庭の生計向上・栄養改善のための在来種野菜栽培支援(SHINE) 2期、3期

- 地域：ウガンダ共和国ジンジャ県
- 目的：農業技術を得て、農業で生計を立てること
- 受益者：HIV陽性者 40家庭（2期、3期）
- 期間：2020年1月～2023年3月（2期）、2022年1月～2023年12月（3期）

HIV陽性者が自分たちで助け合う組織として、村のお母さんジョイが作った組織がカユンガです。2023年度は2期、3期の合わせて40名のシングルペアレントを対象に支援事業が行われました。

在来野菜を安定して栽培する知識・技術の習得をし、グループで広大な畑を維持し、在来野菜のゴベ、ドードー、ケール、さつまいもなどを栽培・収穫・自家消費し、余剰分を販売しています。2期の事業後調査では、収穫ごとの収入は事業前の270%に増加し、1日3食以上食べられている家庭が94%になったことがわかりました。さらに事業の副次的インパクトとして、メンバーの自己効力感の飛躍的な向上と、子どもの教育費が支払えるようになったことがわかりました。自分の物事への処理能力を信じ、困難なことに立ち向かってでも取り乱さないと答えたメンバーは37%から79%へ増加しました。また、学費を滞納せず支払い完了したメンバーは0%から31%になっています。

大きな感謝を

共に働けることに、事業に、みなさんに

カユンガは、PLASと協働しながらシングルマザーの支援を行っています。

SHINE 4期の実施が決まり、とても嬉しく思っています。今は4期に参加するメンバーを集めているところです。SHINE 3期メンバーをはじめ、これからもカユンガはメンバーと支え合いながら実りある活動をしていきます。また、ウガンダでの活動を支えてくれているPLAS、PLASサポーターのみなさん、関係している方すべてに感謝しています。私たちは元気です。今日という日が、みなさんにとっても、良き日になりますように！

ジョイ
カユンガ代表





HIV陽性ユースのための技術訓練事業(BRIGHT)

- 地域：ウガンダ共和国ルウェロ県
- 目的：HIV陽性者ユースのビジネススキルを通じた生計向上
- 受益者：HIV陽性者ユース 30名
- 期間：2021年10月~2023年3月（2期）

ユースの自立

「何もすることがない」から「なんでもできる」へ

ウガンダのルウェロ地方の若者（18歳～30歳）の非雇用率は64～70%と大変高い状況にあります。BRIGHT事業では、HIV陽性の18歳から29歳のユース30名を対象に、複数の技術研修を実施し、グループでのスモールビジネスを開始してユースが自立するサポートを実施。実家に暮らすユース、シングルマザーとして暮らすユース、様々な背景を持ちながら、美容技術、ネイル、紙袋作成、菓子調理を学び、協力してサロンを運営していきます。

シルビアは最初の研修開始時、生後半年ほどの娘アリーシャを連れて参加しました。2年間の事業は、アリーシャの成長を見守る期間でもありました。すでに親元を離れているシルビアは熱心に研修に通い、菓子を習えば菓子を売り、美容ができるようになるとテストの客を見つけて復習を熱心にし、しっかりとサロンを回すユースのロールモデルです。実は子どものころからの夢が美容師だったと2年後にこっそり教えてくれ、はにかみながら貯蓄の仕方も教えてくれます。

サロンをやっていて良いことは、貯金の仕方を身に付けたこと。

例えば今日サロンで働いて5,000シル手に入るでしょう。そしたら、4,000シルは貯金に回して、1,000シルだけ使うの。そうやって貯めていくの。

シルビアさん（26）

パートナー団体ヒーレコースズ卒業

9年間、現地と共に「つくる」支援を、そしてこれからも



PLASと2014年からパートナーシップを組み、CAFE事業やBRIGHT事業、PATH+事業、SMILE事業などたくさんの活動を共にしてきたヒーレコースズ。2023年3月をもって、これまで協働してきた事業が全て完了し、パートナーシップを終了することになりました。ヒーレコースズはPLASとの事業経験を糧に、さらなる地域での活動を今後も展開していきます。

ヒーレコースズは2002年にHIV陽性者の支援団体として設立され、代表のムシシさんのもと、HIV/エイズに命が脅かされることなく人々が人生を享受できる社会をめざして活動を続けてきました。3月にはPLASからの感謝状贈呈式が行われました。ウガンダの作法に則って感謝の祈りから始まった同式では、ヒーレコースズ、PLAS双方の代表、理事、スタッフから挨拶や感謝の言葉が交わされ、笑い拍手に満ちた時間が流れました。これからのヒーレコースズのますますの繁栄とご活躍をお祈りしています。

新パートナー団体候補GIBEH

ウガンダでの新しいパートナー団体を調査・発掘中

PLASとの共同の可能性を探り、新しいパートナー団体を調査中です。2023年8月には理事の横山がムコノ県にあるNGO団体GIBEHを訪れ、団体代表のスーザンと会談しました。

GIBEHのミッションビジョンの中には「子どもの人権、健康権、教育の権利に関する意識を作り出すこと」や「困難な状況に置かれているコミュニティへの衛生服の提供」、活動は教育やリプロダクティブヘルス、HIV感染者へのカウンセリングなど、PLASとの親和性が高く、また共同への意欲が高い団体です。新たな地域での新たな事業の可能性が広がります。

隣人で居つづける

PLASとのパートナー関係が築いたもの

HE-RECODSはPLASと手を携えて仕事ができただけで大変誇りに思い、感謝しています。これまでの事業により、子どもたちは学校に通い続けることができましたし、ユースは職業訓練を受け、CAFEママたちはビジネスのスタートアップができました。そしてそれぞれの子どもの薬、教育、衣服、食事をまかなえるようになりました。私たちはPLASから多くのことを学びましたし、これからもPLASが必要な時には手を差し伸べる隣人です。

ムシシ
HE-RECODS
代表





国内での活動

持続可能な組織を目指して、組織強化に取り組んでいます

2023年度は日本事務局に3つの変化がありました。

1つ目は海外事業担当の山口がケニア駐在になり、長期で日本を離れること、2つ目は広報・資金調達担当の新たな職員・石田が入职したこと、3つ目はリモート勤務を開始して4年目を迎える中で、対面でお互いの関係性に深く向き合う機会が限られてきたと感じたことでした。

この3点を踏まえて、職員が安心して、自分らしく働くことができ、PLASが目指すビジョン・ミッションを実現するために、組織体系の変更や人材育成に力を入れてきました。2024年度も引き続き、組織強化に取り組んでいきます。

また、3月より広報・資金調達担当として職員・石田がPLASに仲間入りしたことにより、PLASの認知・関心層のすそ野を広げながら、個人寄付の多様化による財務基盤の強化ができるようになりました。

温かなコミュニティの一員であること

インターンとしての1年を経て

昨年10月にインターンを開始してから、様々な業務に挑戦させていただけるこの環境で、多くの経験を積むことができました。SNS投稿やイベント/クラウドファンディングに携わり、多くの支援者の方々・遠く離れたアフリカの方々とのつながりを感じ、この温かなコミュニティの一員であることが嬉しいです。この輪がもっと大きなものになるよう、一インターン生として業務で還元できるように、これからも励みたいと思います。

木村涼乃
インターン



チャリティーオークション

84名のみなさまにご協力いただきました！

今年度は2期に分けてチャリティーオークションを実施、合計84名の方にご協力いただき、10,287,407円を現地への支援としてお預かりすることができました。多くのご協力に感謝いたします。

【全ご協力者様（順不同・敬称略）】

2022年10月～2023年3月開催 世界エイズデーキャンペーン
西沢立衛、澤穂希、檜崎正剛、和田毅、甲斐拓也、斎藤夏美、青山なぎさ、田中雅美、tupera tupera、當間ローズ、岩明均、窪塚洋介、紺野美沙子、羊文学、松下奈緒、ベリッシモ・フランチェスコ、萩本欽一、坂本冬美、知念実希人、荒木絵里香、川浦良枝、川口ゆりな、ガチャピン・ムック、大山加奈、ひらぎみつえ、瀬戸あゆみ、コシノジュンコ、吉野裕行、福田透、松本まりか、大木あきこ、渡辺真理、蟹江杏、カジサック、関根麻里、アンミカ、市川猿之助、高橋尚子、アグリム、松坂大輔、羽生善治、シゲタサヤカ、城南海、志田千陽、山口茜、松山奈未

2023年4月～2023年9月開催 アフリカ子ども支援キャンペーン

藤田真央、鶴田真由、アインシュタイン、福原みほ、きむらゆういち、播戸竜二、隈研吾、神野大地、近藤真彦、石若駿、竹下幸之介、遠藤哲哉、上戸彩、ちばてつや、永芳卓磨、ADAM at、花くまゆうさく、326、斎藤夏美、tupera tupera、獣神サンダー・ライガー、坂木原レム、my、中村奨吾、デヴィ夫人、西田敏行、木村弓、坂本冬美、澤穂希、リリー・フランキー、渋谷すばる、紺野美沙子、西沢立衛、七野ワビせん、宮沢和史、北見けんいち、山内日菜子、中村祥子、小林幸子、岩明均、秋倉諒子、一ツ山チエ、高橋留美子、貴島明日香、松本まりか、津田健次郎、カジサック、甲斐拓也、和田毅、羊文学

大阪マラソン2023

2019年に引き続き2回目の挑戦！

2023年2月に開催された大阪マラソンの支援先団体に採択され、PLASをチャリティ先として選んでくださったランナーさん、PLASのスタッフ、理事、現役インターン生、計7名がフルマラソンを走りました。当日の応援やサポートはボランティアさんにもご協力をいただきました。

ランナーさんからは「PLASのランナーとして出走できて本当に良かった」、ボランティアさんからは「大阪マラソンを走ったくらいの貴重な体験ができ、満足感でいっぱいです」というあたたかい感想をいただきました。



みんなの 大阪マラソン

寄付集めから完走まで

PLASさんへの恩返し社内企画として始まったチャリティーラン。毎月練習過程も共有し、当日は様々な思いを乗せて走り切ることができ、過去一番楽しいフルマラソンになりました。寄付集めは不安はあったものの、総計24人の社員が賛同し、無事目標達成。走った私も、関わってくれた社員も、皆で楽しめる企画となりました。

青山翔平さん
freee株式会社



イベント

約3年ぶりの対面イベントも開催！

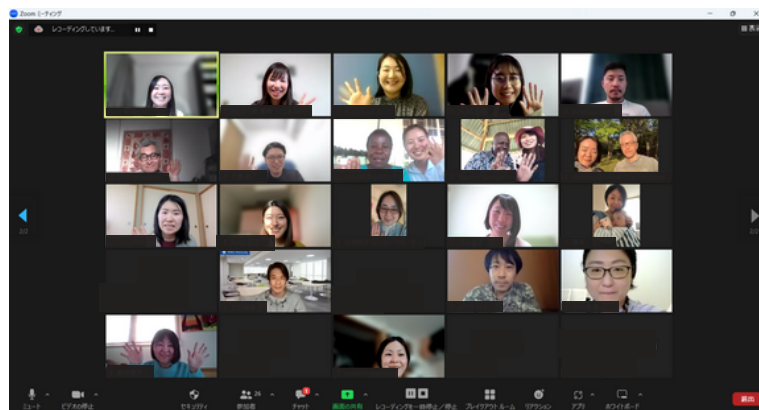
2023年度は全14回のイベントを開催し、274名の方にご参加いただきました。

4月に開催した「Thanksイベント」では、初の試みとなるケニアのプロジェクト地からのライブ中継を実施しました。参加者の方から、このような温かいメッセージもいただきました。

「現地から参加されたシングルファーザーの方が、家族間のコミュニケーションが密になり、貧困から少しずつ生活向上していき、家族間で夢を話し合う瞬間がもっと増えたらいいな。息子さんのお医者さんになりたいという夢、応援したくなりました。」

また、約3年ぶりの対面イベント「バリスタと楽しむPLASカフェ～1杯のコーヒーからアフリカを知る～」も開催しました。オンラインイベントでは見られない参加者同士の交流が生まれている様子が印象的なイベントになりました。

2024年度もPLASチャンネル特別回やクローズドイベント、チャリティーウォークなど、たくさんのイベントを開催していきます。



組織強化

「システムコーチング」「ポレポレタイム」の導入

様々な変化に対応し、アフリカでの活動の土台となる組織づくりを目的として、一般社団法人GEMSTONE代表の深町英樹さんにご協力頂き、スタッフ全員で丸一日かけてシステムコーチングを実施しました。

システムコーチングとは、2人以上の関係性を、1つのシステムとみなし、その課題解決・目標達成に向けて、「関係性」をコーチングする組織開発の手法です。PLASという「システム」の現状を見つめ、これからの姿を共有し、スタッフそれぞれの声を聴き語り合う、とても濃い時間となりました。

また新たな取組みとして、オンライン上で2、3人の少人数で会話をする、通称「ポレポレタイム」も導入しました。リモートワークを続ける中で、発生しづらい雑談タイムを意図的に作ることで、メンバー同士の心理的な距離が日々縮まっているのを感じています。

外側は柔らかく、
内側は熱く

ポジティブな循環の輪と共に

組織づくりに、システムコーチング(R)や経営伴走などを組み合わせて関わらせていただいています。PLASの周りはポジティブの循環が起きています。今大切なものを大切にしながら、前向きに自分達を成長させ、環境を進化させていく。それは遠くアフリカの子どもやお母さん達からもらっている姿勢だと思うし、PLASが起点でつくり出している影響の循環でもあるのだと思います。そんな循環の輪と共に歩んでいければ☆

深町英樹さん
一般社団法人
GEMSTONE



法人連携

多様な連携でひろがる可能性

既存の法人様に加え、新たに複数の企業・団体様にお声かけをいただき、様々な方法での寄付・ご支援をいただくことができました。

【支援/協力頂いた企業・団体様（順不同/敬称略）】

株式会社バリューブックス、株式会社GME、株式会社 BORDERLESS JAPAN、株式会社STYZ、特定非営利活動法人 レッドリボンさっぽろ、カトリック高輪教会、freee株式会社、LINEヤフー株式会社、ソフトバンク株式会社、かみひとねっとわーく京都、パッケージアート株式会社、ピープルポート株式会社、株式会社PR TIMES、株式会社ミッションズ、株式会社 CHIMNEY TOWN、株式会社セールスフォース・ジャパン、株式会社トゥーマーカープロダクツ、ザボディショップジャパン株式会社、大阪マラソン事務局、株式会社エイドル、コンダメント株式会社



助成金・補助金・アワード

現地のニーズと組織強化にご支援いただきました

【助成金・補助金一覧（順不同）】

国際協力財団「国際協力 NPO 助成 成長型事業 ムラのミライ・伴走支援事業」／フェリシモ 地球村の基金／テルモ生命科学芸術財団／AINプログラム「食と健康」国際協力支援プログラム／大阪コミュニティ財団／積水ハウスマッチングプログラム／大阪財団助成金／連合・愛のキャンパ「中央助成」／AKBN（アケボノ）ファンド／（外務省主催）NGOインターンプログラム／JICA草の根技術協力事業／SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞／エクセレントNPO大賞 市民賞ノミネート

みんなで、社会問題を解決していく

入職から9か月間を経て

学生の頃から貧困・ジェンダーに関する社会問題に関心があり、国内外のNPOや企業でインターンシップに参加していました。そういった経験の中で「NPOやNGOで働き、社会問題を解決していくための仲間を集められるようになりたい!」という思いを持ちました。

3月にPLASに入職し、やっと自分の目指す社会を実現できる「広報・資金調達担当」になりました。しかし入職当初は、PLASのこともプロジェクトのことも全然分からず、支援者さんやPLASに興味を持ってくださる方と対話できるイベントへの登壇に自信がありませんでした。

入職後、約1か月間、ウガンダとケニアを訪問し、パートナー団体から現地の問題やプロジェクトの現状、プロジェクトに参加しているマザーやその家族の状況をたくさん教えてもらいました。現地出張を通して、プロジェクトがマザーやその家族の人生を変えるターニングポイントになっているのだと強く感じました。

今は、その話をみなさまにお伝えできることをとても楽しみにしています。イベントへのご参加をお待ちしています!



石田彩華
広報・資金調達担当



多くの仲間と共に

PLASを支える仲間たちの声

PLASの活動には多様なバックグラウンドの方たちが関わっています。ご支援者のみなさまをはじめ、理事やインターン生などさまざまな関わり方で活動に携わっていただいています。2023年度もたくさんのご支援・お力添えをいただきました。心より感謝申し上げます。



オンラインでもたしかに感じるつながり

国際協力分野におけるNGOのリアルを知りたいという思いでインターンを開始しました。主にオンラインイベントの運営業務を担当し、画面越しの皆様へPLASの魅力をどのようにお伝えできるか日々頭を悩ませながら、充実したインターンライフを送っています。アンケート等でいただくあたたかいご声援に励まされ、皆様とのつながりを手に取るように感じています。(広報コミュニケーションインターン 佐々 俊之)



イベントへの参加をきっかけにサポーターに

PLASの活動はただ寄付をするというだけでなく、夢や希望を持って前向きに生きていけることを支援し、寄り添っているところに共感しています。また、持続可能な支援をされているので自分の支援した金額以上の成果や広がりを活動報告等を通じて実感しています。これからも少しでも誰かの笑顔が増えていくことを願い、微力ながら応援させていただきます。(マンスリーサポーター 板野 翔さん)



「つくる」支援に共感

これまでは災害人道支援などで、スポット的に色々な団体に寄付をしていたのですが、どこかに継続的に支援をしたいと思った時に真っ先に思い浮かんだのが、過去にイベントに参加させてもらったPLASさんでした。SNSなどを通じて、インターン生も含めたスタッフの皆さんや、現地の一人ひとりのストーリーを知ることができるのが1番の魅力だと思います。(マンスリーサポーター 小川 瑛莉奈さん)

活動計算書

2022年10月1日 から 2023年9月30日 まで

(単位：円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費		156,000
2. 受取寄附金		
受取寄附金		21,409,393
3. 受取助成金等		
受取民間助成金		3,626,146
4. 事業収益		
事業収益		15,206,230
5. その他収益		
受取利息	1,198	
雑収益	3,000,000	3,001,198
経常収益計		43,398,967
II 経常費用		
1. 事業費		
(1)人件費		
給料手当	16,900,033	
法定福利費	2,217,232	
人件費計	19,117,265	
(2)その他経費		
謝金	73,564	
諸会費	3,500	
減価償却費	48,364	
広告宣伝費	55,000	
福利厚生費	12,000	
会議費	65,326	
旅費交通費	2,545,238	
通信運搬費	203,311	
消耗品費	264,416	
業務委託費	5,559,031	
支払手数料	1,028,308	
地代家賃	390,091	
印刷製本費	47,146	
租税公課	1,145,500	
研修費	445,794	
保険料	179,185	
雑費	3,124	
その他経費計	12,068,898	
事業費計		31,186,163
2. 管理費		
(1)人件費		
給料手当	1,010,259	
法定福利費	136,519	
人件費計	1,146,778	
(2)その他経費		
会議費	14,299	
研修費	28,120	
旅費交通費	50,226	
通信運搬費	59,702	
消耗品費	2,620	
業務委託費	354,490	
支払手数料	1,033,578	
地代家賃	264,000	
印刷製本費	29,940	
諸会費	75,000	
雑費	149,412	
その他経費計	2,061,387	
管理費計		3,208,165
経常費用計		34,394,328
当期経常増減額		9,004,639
税引前当期正味財産増減額		9,004,639
法人税、住民税及び事業税		1,127,100
当期正味財産増減額		7,877,539
前期繰越正味財産額		10,913,470
次期繰越正味財産額		18,791,009

「受取寄附金」には、マンスリーサポーターや個人からの都度寄付、法人寄付などが含まれます。

「事業収益」には、「JICA草の根技術協力事業」の資金が含まれています。2021年度まで受取補助金に仕分けられていましたが、2022年度から事業収入となっています。

「事業費」にはアフリカでの支援活動と日本での啓発活動の両方が含まれます。

「業務委託費」は、主に現地パートナー団体と共にすすめる支援事業に係る費用です。

「租税公課」には支払消費税が含まれています。

経常支出に占める2023年度の管理費率は9.3%に。リモートワークの継続によって2021年度から管理費率が減少しています。

「支払手数料」には海外送金や寄付決済の手数料が含まれます。

貸借対照表

2023年9月30日 現在


(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	20,905,379		
未収金	42,900		
流動資産合計		20,948,279	
2. 固定資産			
(1)有形固定資産			
工具器具備品	48,364		
有形固定資産計	48,364		
固定資産合計		48,364	
資産合計			20,996,643
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	936,204		
未払法人税等	1,127,100		
預り金	142,330		
流動負債合計		2,205,634	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			2,205,634
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		10,913,470	
当期正味財産増減額		7,877,539	
正味財産合計			18,791,009
負債及び正味財産合計			20,996,643

監査報告書

監査報告書

特定非営利活動法人エイズ孤児支援 NGO・PLAS
代表理事 門田 瑠衣子様

2023年12月7日
監事 矢野 昇 

私は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人エイズ孤児支援 NGO・PLASの2022年度（2022年10月1日～2023年9月30日）の業務及び会計の状況について監査を実施いたしました。

理事の業務執行に関する監査にあたっては、重要な会議の議事録その他の重要資料を閲覧するほか理事から事業の報告を聴取しました。また財産の状況に関する監査にあたっては、財務諸表等（活動計算書、貸借対照表、財務諸表の注記及び財産目録）と証拠書類等との照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行いました。

監査の結果、理事の業務執行は、法令、定款及び事業計画に基づき適正に執行され、不正の行為または法令・定款に違反する重大な事実はないことが認められました。

また、法人の財産の状況は、NPO法人会計基準に準拠して、財務諸表等に適正に表示されているものと認められました。

以上

予算・実績対比

項目名		予算	決算	予実%	
経常収益	会費	170,000	156,000	91.76%	
	寄付	22,205,667	21,409,393	96.41%	
	助成金	4,500,000	3,626,146	80.58%	
	JICA草の根	13,872,000	15,011,630	108.22%	
	事業収益	841,000	189,600	22.54%	
	受取利息	0	1,198		
	雑収入	0	3,000,000		
	経常収益計	41,588,667	43,398,967	104.35%	
経常費用	事業費	人件費	17,766,600	16,900,033	95.12%
		その他経費	15,717,134	12,068,898	76.79%
		事業費計	33,483,734	31,186,163	93.14%
	管理費	人件費	1,200,000	1,010,259	84.19%
		その他経費	4,392,860	1,146,778	26.11%
		管理費計	5,592,860	3,208,165	57.36%
	経常費用計		39,076,594	34,394,328	88.02%
経営増減額		2,512,073	9,004,639	358.45%	

ご支援を力に新たなスタートへ

新しい分野での事業スタートと新パートナー開拓に取り組んだ1年

2023年度はみなさまのご支援に支えられ、ケニアでの新事業スタートや、ウガンダでの新たなパートナー団体の開拓など飛躍の1年となりました。経常収益は対予算達成率で102%となり、寄付収入は前年の1,956万円から2,140万円に伸び、経常収益の49%が個人・法人のみなさまからのご寄付で占められました。心より感謝申し上げます。

一方、経常費用は前年度比82%となりました。新スタッフの雇用時期や現地への送金タイミングが2024年度に後ろ倒しとなった影響です。2024年度は、ウガンダで新たな事業がスタートする予定です。取り残された子どもたちが前向きに生きられる社会を目指すために、みなさんと一緒にわたしたちも前向きにチャレンジしてまいります。



事務局長 小島美緒

Thank You



PLAS



ご支援、ご協力をお願いします

サポーター

月1000円～の寄付
で子どもたちを
支援するマンスリー
サポーターにご支
援・ご参加をお待
ちしています！



SNSでPLASとつながる



特定非営利活動法人

エイズ孤児支援NGO・PLAS

<https://www.plas-aids.org/>

〒150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第一ビル402号室
03-6821-1758 info@plas-aids.org

理事：門田瑠衣子（代表理事）、一宮暢彦（副代表理事）、赤尾邦和、小島美緒、鶴見和雄、横山裕司、藤本俊明（監事）、矢崎芽生（監事）

設立：2005年12月

